

小学校の階段と人間工学

2学期に職場体験として、川之江南中学校の2年生3名が川滝小学校へやってきました。3名とも川滝小学校の卒業生だったので、久しぶりに小学校へ来てみての感想を聞いてみると「運動場や体育館がこんなに狭かったかなあと思った。」と、続いて「階段一段一段の高さが低くて、びっくりした。」と驚いていたのを、児童が階段の段を飛ばして降りてくるのを見かけた時に思い出しました。確かに小学校の階段の段差は、一般のそれと比べて少し低いです。小学生は大人と比べて体のサイズが小さいのだから、当然と言えば当然です。しかし逆に考えると、階段の段差は、使用する者の体の大きさに基づいて決められていると分かります。このような「人間に合わせた物づくりのための技術や学問」を人間工学と呼んでいます。そういえば、パソコンや電卓のキーの大きさがちょうど指の大きさくらいじゃないですか。小さすぎたり、大きすぎたりして使いづらかった経験はないでしょうか。椅子の座面や背もたれは、絶妙に曲がっていますよね。物の大きさや形（デザイン）などがちょうど良い加減なのは、人間工学のおかげです。せっかく人間に合わせて物は作られているのだから、正しく使いたいですよね。階段の段を飛ばして上り下りした結果、けがをするなどということが起こるのは、人間工学によって安全とされている高さを軽んじたせいです。しかし、階段の段を飛ばしたくなる理由も分かります。小学校は1年生から6年生までの年齢で数えると6歳も差がある子どもたちが一緒に生活しているので、階段の段差は、おそらく小学生の平均的な体格に合わせているか、低学年に合わせています。そうすると、高学年の児童には使いづらい高さになるので、「段を飛ばす」となります。個別に使うものならば、使用者に合わせて作れば良いですが、みんなで使うものを全員に合わせて作ったり、ユニバーサルデザインを実現したりすることは難しいようです。人間工学は、まだまだ研究の余地のある学問ですね。私たちも、より多くの人により良く生活できるように工夫できることを考えたいですね。そして、多少不便でも安全優先の使い方をしましょう。**階段の段は、飛ばさない。**

桜のつぼみが膨らんできました

先日、松山へ出掛ける用があったのですが、その道中に梅の花がきれいに咲きそろっている場所があり、その眺めに運転中の疲れも癒されました。ところが、その日から3日後に同じ場所を訪れてみると残念なことに梅の花は散っていて、びっくりしました。梅の開花は例年より早く、結果、散るのも早かったようです。どうやら「例年より暖かくなるのが遅いなあ」と感じていた私の感覚は、ずれていたようですが、梅はちゃんと春の訪れを感じていたようです。ふと学校の桜の木を見てみると、桜のつぼみが膨らんできていることに気がきました。思い起こせば、去年もちょうどこの時期でした。季節は決まった時期に移りゆくものですね。桜のつぼみが膨らみ始めると、長かった1年も終わりが近付いてきていることを実感します。また、6年生の卒業が迫っていることを感じながら、寂しい気持ちも膨らんでいきます。しかし、卒業は人生の節目、6年生の前途を祝福しながら明るく元気に中学校へ送り出したいと思います。そして、桜の季節は出会いの季節でもあります。新入児童を温かく迎える準備をしながら入学してくることを楽しみに待つ春にしたいと思います。

